

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている	緩やかに回復しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	弱含んでいる	弱い動きとなっている	↘
公共事業	前年並みとなっている	前年を下回っている	↘
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、増加している。百貨店販売は、緩やかに回復している。家電大型専門店販売は、横ばいとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響が残るものの、緩やかに持ち直しつつある。旅行取扱高は、国内向けを中心に、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇の影響もあり、一人当たり買上点数は減少している。生活防衛意識の高まりが見られ、特売日における購入が集中する傾向がある。(スーパー、大企業)
- 外出増加等により化粧品や飲食品、花粉症の治療薬の売行きが好調。調剤も引き続き伸びている。加えて卵や牛乳、パンなどの日配品の売行きが好調。(ドラッグストア、大企業)
- 総じて売上は好調。コロナで売上が落ち込んでいたビジネス関連商品や、セレモニー用のフォーマル服、口紅等の化粧品の需要が復活してきている。(百貨店、大企業)
- 半導体不足等による供給制約が解消しつつあり、メーカーからの供給が回復し、販売増加につながっている。受注残の増加に歯止めがかかってきており、今の供給状況が続けば、今後は減少に転じることが見込まれる。(乗用車、中小企業)
- 国内については、旅行に加えイベントや対面会議の開催需要が高まり、取扱いが増加している。海外については、個人や出張等の取扱いについては確実に増えているものの、円安や物価高の影響により戻りが弱い。(旅行、中堅企業)
- 会食の人数制限廃止により、法人の宴会需要が増えてきており、加えてインバウンドも増加傾向。コロナの5類移行後はさらなる法人の宴会需要の増加に伴い、コロナ前の売上および客足が戻ると期待している。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな回復の動きがみられる。航空機体部品は、緩やかに持ち直している。金属工作機械は、高水準で推移している。半導体集積回路は、弱い動きとなっている。液晶は、横ばいとなっている。開閉機器は、緩やかに持ち直している。プラグは、持ち直しの動きがみられる。電動機は、緩やかに回復しつつある。普通鋼は、おおむね横ばいとなっている。特殊鋼は、引き続き、弱い動きとなっている。

- 半導体等の部品不足による影響は徐々に薄れてきており、足下では稼働率が上昇している。今後も部品供給が不安定な状況が続くが、受注残解消に向けた生産を計画している。(輸送機械、大企業)
- 受注残が高い水準が続いている。受注残対応のため生産水準が高い状況が続いており、今後も同様の状況が続く見込み。(生産用機械、大企業)
- 情報通信機器向けの需要低迷が続いているため、需要動向に合わせて生産稼働率を調整している。稼働調整により製品在庫が過剰気味の状況は徐々に解消しているが、今後も不透明な状況が続くとみている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 半導体不足等の影響が残っているため計画は下回っているものの、完成車メーカーからの受注は回復しており、稼働率は徐々に上昇している。今後も不透明感はあるものの、この状況が続くと見込んでいる。(電気機械、大企業)
- 完成車メーカーからの受注は回復傾向だが、完成車メーカーの減産時に生じた在庫の調整に時間を要しており、生産稼働率を落としての操業が続いている。(鉄鋼、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は低水準である。求人の状況については、業種間等でばらつきがみられる。

- メーカー側の生産計画に合わせて従業員を採用したものの、たび重なる計画変更や生産停止により、過剰気味な状態が続いていた。最近では生産回復に伴い、適正に落ち着いてきているが、募集再開については、もうしばらく様子を見る。(輸送用機械、大企業)
- スーパーでの人手確保は、宿泊・飲食業との競争が生じていることから困難を極めている。加えて電気代の高騰により利益を圧迫されているため省人化を進めていきたい。(小売、中小企業)
- 客足が増加していることから、人手不足感がさらに増している。新規採用も中途採用も行っているが、コロナ前と比較し、応募者が少なくひっ迫している。派遣会社に依頼しても、派遣を断られることもある。(サービス、中堅企業)
- より好条件を求めたり、非正規から正規への転換を目指したりといった積極的な理由の転職を考える人も多くみられた。(労働局)

- **設備投資 「4年度は増加見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
    - 製造業では、生産用機械などが減少となるものの、情報通信機器や輸送用機械などが増加となることから、増加見込みとなっている。
    - 非製造業では、建設などが減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 工場新設に合わせて、LNG ガスによる発電設備とコージェネレーションシステムの導入や太陽光パネルの設置により、エネルギー使用率とCO2 排出量の削減を図っていく。（はん用機械、大企業）
- **企業収益 「4年度は増益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
    - 製造業では、生産用機械や窯業・土石などが減益となるものの、情報通信機器や輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
    - 非製造業では、建設や情報通信などが減益となるものの、サービスなどが増益となることや運輸が黒字となることから、増益見込みとなっている。
  - **企業の景況感 「『下降』超となっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
    - 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き（5年4-6月期）は「上昇」超に転じる見通しとなっている。
  - **住宅建設 「弱い動きとなっている」**
    - 住宅建設は、持家の減少傾向が続いており、分譲住宅、貸家も前年を下回っていることなどから、弱い動きとなっている。
  - **公共事業 「前年を下回っている」**
    - 前払金保証請負金額でみると、市町村、独立行政法人等は増加しているものの、地方公社等、県などが減少していることから、前年を下回っている。
  - **輸出 「緩やかに増加している」**
    - 輸出（円ベース）は、緩やかに増加している。なお、輸入（円ベース）は、前年を上回っている。
  - **企業倒産 「件数は前年を上回っている」**

### 3. 各県の総括判断

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部で調整する動きが続いているものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。